

大久保地区育成委員会だより

第32号

新宿区大久保地区青少年育成委員会

広報部 TEL 3209-8651

平成 31 年 3 月号



開校百周年記念式典を終えて

戸山小学校

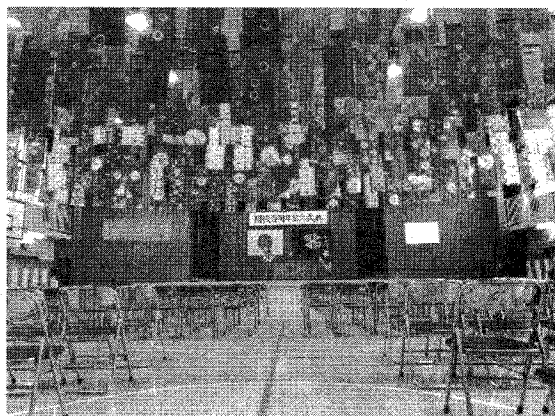
副校長 福井みどり



戸山小学校は、平成30年9月22日(土)に開校百周年記念式典を行いました。当日は霧雨の中、新宿区無形文化財である「鉄炮組百人隊」の皆様、式典前の祝砲を撃っていたいただきました。ご来賓の皆様を始め、保護者・地域の皆様、全校児童、教職員の皆で、迫力ある祝砲を見ることが出来たこと、大変うれしく思っております。ご覧いただいた皆様には、地域の歴史の深さを感じると共に、地域と共に子どもを育てている戸山小学校の姿を感じていただけたのではと思っております。

記念式典では、ご多用の中、吉住区長様、酒井教育長様、高橋PTA会長様よりご祝辞をいただきました。また、区内各小中学校の校長先生、幼稚園・子ども園・保育園の園長先生、各関係諸機関の皆様、たくさんの方々にお越しいただき、お祝いでいただきました。式典の中では、

本校の5・6年生が戸山小学校の代表として参列し、戸山小学校の歴史について、ニュース番組に見立てて発表しました。ご参列いただいた多くの方々から、5・6年生の発表する態度や、その内容についてお褒めのお言葉をたくさんいただきました。私たち教職員もその立派な高学年の様子を見ていて、戸山小学校の誇りを胸に活躍している様子を感じ、とても嬉しくなりました。



今、戸山小学校は、この高学年の子どもたちのように、多くの子どもたちが楽しく前向きに勉学に励んでいます。これは、これまで戸山小学校を支えて下さった地域や保護者の皆様のご支援のおかげと感謝しております。

これまでも、この百年の歴史の中には、関東大震災や戦争等、様々な出来事がありました。その度に、教育活動を行うことが困難な場面があったと聞いています。困難を乗り越えられたのは、地域の皆様、保護者の皆様、当時の教職員の皆様のご尽力あつてのことです。その団結力と知恵と熱意は、今も戸山小学校に関わる多くの方々から感じています。

これからも皆様からいただいたこの思いを受け止めて、教職員一同力を合わせてまいります。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



ワンコインクラブの「花育活動」

大久保小学校

副校長 久保田恵美

☆ワンコインクラブとは

花き関係者が、月500円の会費を出資し合い運営しているボランティア団体です。会員は花き関係者で構成され、花材機器関連、市場関係、生産者、県職員と幅広く多くの方が参加されています。(クラブ代表：磯村信夫、副代表：守重知量)

団体の目的は、花き(植物)を通じて、感受性豊かな子どもたちの育成と、多様性を認め合える明るい未来の創出です。主な活動として次のようなことを行っています。

- 毎月、全ての教室に季節のお花を届けています。
- 届ける際には、その花の楽しみ方や飾り方のポイントなどを書いたリーフレットを作成し、花を生けるお手伝いをしています。
- 年に1〜2回、子どもたち一人一人にアレンジの楽しさを体感させるため、「花を楽しむ教室」(個人で花を生ける活動)を行っています。

(ONE COIN CLUB ホームページより抜粋)

新宿区立大久保小学校では、毎月、季節の花を届けていただき、花を生ける活動を行っています。また、花の楽しみ方や飾り方のポイントなどが書かれたリーフレットも配布され、花の種類や花言葉とともにアレンジの楽しさを体感することができています。

11月28日(水)の4、5時間目に、本校体育館において、ワンコインクラブの皆様による「花を楽しむ教室」

(全児童対象)が実施されました。はじめに花の説明と花の生け方の説明をしていただき、その後、それぞれ自分の作品を創りました。一人一人が自分のイメージを大切に創り上げました。花の高さや向きを考えながらハサミを入れ、オアシスにさしていました。



「うわあ、いいにおい!」「花の顔がこっちに向かないな」「茎が太くて切りにくいな」「〇〇ちゃんの手がきれい!」

真剣な表情と笑顔が交互に見られた時間となりました。完成した作品は、それぞれ家庭に持ち帰り、家族で楽しむことができました。これからも、花や緑と触れ合うことを通して、こころの豊かさの育成を図っていきます。

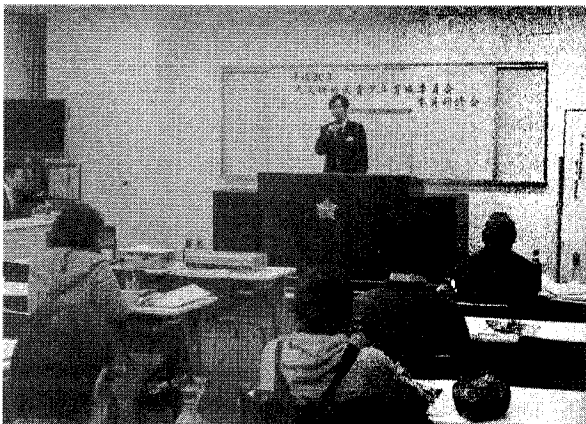
大久保地区青少年育成委員会の 研修会に参加して

西早稲田中学校

生活指導主任 森 太加志

この度、私が新宿警察署にお邪魔して実際の少年達の犯罪についてお話を伺って感じたことは、随分と昔に比べ、様変わりしたものだと思いました。昔の不良少年と結びつくものは、酒とタバコとほぼ決まっていたが、今は、飲酒についてはパッケージの状態が炭酸飲料やジュースと見まごうばかりで興味・関心をそそってしまうようで、以前と件数は変わらない状況だそうです。逆にタバコについては値段が以前より倍以上になっているせい、か、青少年が頻繁に購入できない状況の為に件数は減っているようです。

それよりもカラオケ店での未成年者が不純異性交遊や振り込め詐欺の受け子や出し子と称する安易で高額報酬を手にするところの、犯罪に加担してしま



ケースが増加しているという。

また、ヤバイ仕事と気づいて足抜けしようとするものならば、暴力で支配され、つかまるまでやらされる。世の中、甘い話は必ずと言っていいほど落とし穴にはまるものである。

後半は、歌舞伎町の様子を警察の方のリアルなお話を交えながらパトロールした。私も若かりし頃に何度か足を運んだことがあるが、以前に比べ未成年者らしき人を見かけることが多かった。ここは、鼻のきく地まわりの人々が、若く心の隙のある人々に声をかけ、華やかな所と闇の所の両面あるこの街に染めていく、というようなことを警察の方に伺った。そのギャップに少し恐ろしさを感じた。



この研修会に参加し、普段考えたこともないような犯罪や事件に関して、現状を教えてもらい、保護者や教員や地域の方々の何気ない目配りが如何に大切かを痛感しました。また、警察の方の一

番印象に残った言葉は、「お節介な一言」が、青少年の非行をどれくらい止めることかとおっしゃっていたことです。

社会環境部

親子で楽しむボウリング大会

平成最後の年末、恒例となりました「親子で楽しむボウリング大会」を実施しました。参加人数は申し込みの段階で140名となり、このイベントを開始してからもっとも多い人数となりました。ただし、当日、体調不良等でのキャンセルがあり、最終的には参加者は110人となりました。キャンセルのほとんどの方が猛威を振るったインフルエンザの影響です。

しかし当日参加された方々は、本当に楽しそうにボウリングを楽しまれた様子でした。開催後にお会いした各校のPTAの保護者の方から感謝の言葉をたくさんいただきました。

少々、裏方の話ですが、こういった育成部のイベントは部長である私が中心となり、大久保小、天神小、戸山小、各校選抜2、3名の保護者で構成されるのですが、今年度はすべての学校の保護者がいわゆる新人、初めてのイベント運営です。不安もあったでしょう、何をどのように参加したらよいか戸惑ったのではないのでしょうか。

でも、まとめる私としては皆さん献身的に貢献してくださり、大勢の参加者をうまく誘導して、申し込み用紙の配布から、イベント終了時まで何の問題もなく終えることができました。例年ですと12月の第三週目あたりの日曜日を予定しているのですが、会場となるボウリング場の予約に空きがなく、12月23日、かなり押し迫った日しか会場の予約が取れず、また連休の真ん中といった日程

で、参加人数の確保が心配されましたが、逆に父さんの参加が増え、改めてやってみないとわからないものだと痛感しました。

正直にいうと、イベントを実行する側にはいろいろな問題が生じますし、作業量も半端ではありません。しかし、会場に集まった参加者の本当に楽しい子供達の笑顔をみれば、また来年も頑張ろう！と思う日々です。参加してくださった皆さん、そして運営を手伝ってくれた皆さん、ありがとうございました。

育成部 水谷紀雄

第8回「い・からまつり」を終えて

子ども総合センター

所長 関原陽子

去る11月25日(日)に新宿こ・から広場において、第8回こ・からまつりを開催いたしました。今年は約3,100人の来場者があり、まつりを盛大に終えることができました。

これは、地域の皆様のご理解とご協力があったからこそ深く感謝いたします。

第1回のまつりから欠かさず参加して下さっている大



久保地域見守り隊や大久保未来組の皆さん、

そして子ども総合センター地域活動連絡会の方々には感謝の念が堪えません。

また、大久保地域見守り隊のエン

ブレムにも採用されている新宿シンちゃんは今年も人気の的で、多くの子どもたちに取り囲まれ、賑わっていました。

地域の皆様や来場された方々からいただいた感想、ご意見、ご希望を参考に、来年、再来年と一層充実したまつりにしていきたいと考えております。本当にありがとうございました。

大きくなっても歌ってね!

親子合唱団 岩垂香澄

現在、親子合唱団では30名ほどの親子が参加しています。

赤ちゃんから小学生まで幅広い年齢の子どもたちが参加していますが、やはり幼稚園児が一番多く中心になっています。一方小学生になると時間的にも難しくなってきた、昨年の12月にも二人の小



子ども棟入口

学生が合唱団を卒業していきました。一人は1才から、もう一人も3才から参加してきました。あんなに小さかったのにいつの間にか大きくなってしまい、寂しさもありますが同時に頼もしさも感じました。



このようにして今までにたくさんの子供たちが親子合唱団を卒業していきました。皆、今でも合唱団で歌った歌を覚えていて、うか？
そして今はどんな歌を歌っているか？

しょう？
合唱団では古い歌も時々歌いますが、そんな時は、歌が好きだった母がよく一緒に歌ってくれたな、と子供の頃のことを懐かしく思い出します。

今はテレビやCD等だけではなく、スマートフォン等でもたくさんの歌を手軽に聴くことができます。中学生になり、高校生になり、その時々で聴く歌も、歌う歌も違うでしょうが、いつまでも身近に歌のある生活であってほしいなと思います。そして、いつかお父さんやお母さんになった時、子どもと一緒に歌を歌ってほしいなと思います。

新しい課題曲に挑む

大久保未来組 小津真知子

2018年の大江戸ダンスコンテストに参加できたのは、踊り子の人数が集るかに懸かっていました。今年度は転校する子や、受験勉強に専念するために離れる子も多く、本当に少なくなりました。

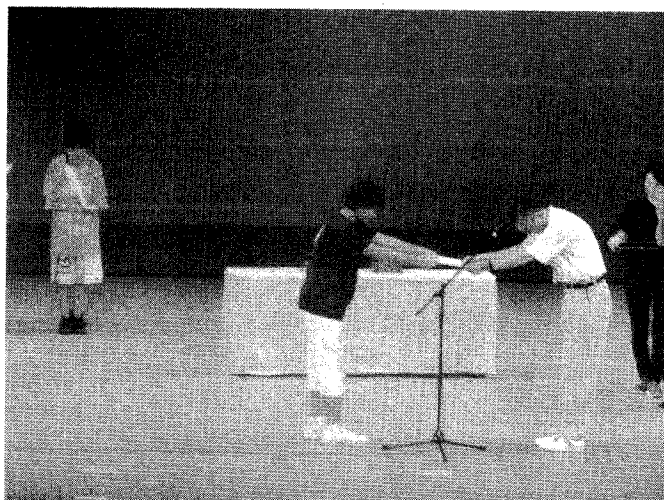
た。

こういう状況の中で、踊りたいし、コンテストに出たいと素直に大人たちに気持ちをぶつけてくれる子ども達は、私達大人もやる気にさせる力を持つていました。今回、選んだ課題曲はとても素敵な曲で



すが、振り付けがとても難しい。今の子ども達が本当に踊れるようになるか心配でした。

いつも指導してくださる吉田先生に何度も教えていただき、それでも完全にはマスター出来ず、先生をハラハラさせてしまいました。でも、途中で辞めることなくコンテストに楽しんで出ている子ども達を見ることは関わっている大人にとつての幸せでした。



大江戸ダンス表彰式

もう少し振りをきちんと覚えてくれると最高ですが、この子達には踊りを楽しむ心があるから、これからも頑張ってくれと思っています。

そして、コンテストに参加できたのは、地域の方や親御さん達の協力があってこそ実現出来たことに心から感謝しています。さあ、2019年度のコンテストは参加出来るでしょうか？